

The Whisper from Amherst

エミリーのささやき

アマースト町は、森と湖に恵まれたアメリカ北東部、ニューイングランド地方の小さな町のひとつです。この辺りは、降水量と寒暖の差の影響で、紅葉が美しいことで知られています。

ニューイングランドでは、9月中頃から1か月ほどの間を、フォーリッジ (foliage) と呼びます。葉とか群葉という意味をもつことばで、その名のとおりカエデ、スイカズラ、クルミ、ヒッコリー、ハゼ、ウルシ、カシ、ポプラといった木々が、紅、オレンジ、黄色と、次々に山を彩っていくそのさまは、山火事のように、ときには燃え盛る炎のように見えます。

‘The name—of it—is“Autumn”—

The name — of it — is “Autumn”—
The hue — of it — is Blood —
An Artery — upon the Hill —
A Vein — along the Road —

その名は 秋
その色は 血
丘にのびる動脈
道沿いに静脈

Great Globules — in the Alleys —
And Oh, the Shower of Stain —
When Winds — upset the Basin —
And spill the Scarlet Rain —

小路に 大きな血の玉
風が窪地を吹きあげ
緋(スカーレット)の雨をふらす
と ああ 血染の驟雨(しゅうう)

It sprinkles Bonnets — far below —
It gathers ruddy Pools —
Then — eddies like a Rose — away—
Upon Vermillion Wheels —

帽子(ボンネット)をいっぱい 遥か下に撒きちらし
赤い溜まりをみつめる
やがて 秋は薔薇のように渦巻いて
朱色(ヴァーミリオン)の車輪に乗って去っていく

(思潮社「エミリー・ディキンソンを読む」岩田典子 より)